

令和5年度の取組

レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

1.今年度の主な取組

【取組①「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進】

1 キャリア在り方生き方ノートを活用した実践

- ・取組 キャリア在り方生き方ノートに新たに追加した「市制100周年」「SDGs」「かわさきパラムーブメント」に関するページを授業で活用することで、多様性を尊重する社会をつくる子どもを育む教育を推進
- ・成果 かわさきパラムーブメントや、川崎市のブランドメッセージ、持続可能な社会づくり等を知り、**誰もが各々の個性を尊重していいこと考える機会**となった。
- ・課題 市制100周年を契機に、ノートの活用と多様性について考える機会を設ける取組をさらに推進する必要がある。

☞ 教育委員会事務局の事業のほかにも学校コラボで次の事業を実施！

- ・バリアフルレストラン
- ・パラアスリート交流教室
- ・インクルーシブ音楽ワークショップ
- ・英国スポーツ体験交流



バリアフルレストラン実施の様子

◆アドバイザーによる研修会の実施（岡田弘氏・前東京聖栄大学教授健康栄養学部管理栄養学科人文科学系カウンセリング室教授）

かわさきパラムーブメントのレガシーの形成に向けた具体的な取組を推進するに当たり、児童生徒指導の中心的な役割を担う教職員や支援する指導主事の会議（8月開催・計約210名が参加）において、**先進的かつ専門的な知見を学び、課題の解決や新たなアイデアの創出**につなげた。

2 市制100周年記念事業「学校e～ね★サミット」に向けた準備

- ・取組 学校や地域のよいところを探し、学習したことを地域に発信する取組。令和5年度は、プレ事業として、学習・発信の準備を行うとともに、次年度の活動案を作成
- ・効果 川崎市がブランドメッセージに込めた「**多様性は可能性**」などの“大切にしている思い”を知り、**共生社会の担い手として、自分たちができることなどを考えて実践**することができた。



ブランドメッセージから多様性について考える授業の様子（中学校）

3 多文化教育コーディネーター派遣事業の実施

- ・取組 特別の入試制度を設けた川崎高等学校定時制において、外国につながるのある生徒に対し、多文化共生、日本語教育、キャリア支援等の専門的知識を持つ人材（多文化教育コーディネーター）を定期的に派遣
- ・成果 **日本語支援等一人ひとりに寄り添った支援**を行うとともに、**進路に関する情報提供やロールモデルとの交流会を行うことで、外国につながる生徒の卒業後のキャリア形成を支援**。また、在留資格についての研修（令和5年度は33名の教員が参加）など、専門的知識を持つ講師による研修の実施等により**教職員の理解を促進**
- ・課題 より効果的な展開を検討するとともに、高等学校での日本語支援体制について、広く周知していく必要がある。



在留資格についての職員研修

4 性的マイノリティへの理解促進のためのプログラムの実施及びリーフレットの配布

- ・取組 児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進するため、性的マイノリティに対する正しい理解促進を図るためのプログラムの実施及び保護者向けリーフレットの作成・配布
- ・成果 **プログラムが「多様性を尊重する学校づくり」を行うきっかけ**となっており、**プログラム**（令和4年度の8校、約2,000名の参加から拡充し、**令和5年度は25校、約6,600名が参加**）後の児童生徒の感想の中には「**差別のない社会を作りたい**」といったものもあり、すべての人の人権尊重を目指す意識が芽生えていた。
- ・課題 リーフレット（令和5年度は67,000部発行）を活用して性的マイノリティに係る正しい知識を周知することで、引き続き保護者の理解を図る必要がある。



リーフレット

【取組② 一人ひとりの教育的ニーズへの対応】

5 医療的ケア児の通学支援の実施

- ・取組 保護者の負担軽減と医療的ケア児の学習機会の確保のため、川崎市立田島支援学校において、医療的ケア児の通学支援を開始
- ・成果 **保護者からは「通学支援が始まって、仕事に行きやすくなった」**、「自分で送迎するときには医療的ケアの実施もあったので、**精神的にも体力的にも負担が減った**」といった感想があり、本事業の目的である保護者の負担軽減に効果があった。



医療的ケア児通学支援の様子

6 医療的ケア児の支援充実に向けた意見交換会の開催

- ・取組 医療的ケア児への支援の充実に向けて、関係機関が一堂に会して、それぞれの立場から支援等に係る意見を交わす意見交換会を実施
- ・成果 「市立学校医療的ケア連絡会議」で、医療的ケア支援事業について**意見交換（年間3回、医師、看護師など関係機関から24名が参加）を実施**。また、聖マリアンナ医科大学病院の小児科の医師が主催する学習会に参加し、**子どもの健康等について学びを深めることができた**。
- ・課題 今年度、医療機関と連携することができたため、このつながりを福祉・保育等の関係機関に広げていく必要がある。

7 特別支援学校及び小中学校児童生徒との居住地校交流の実施

- ・取組 市立特別支援学校の児童生徒が、通学区域の小中学校の児童生徒等と交流・共同学習を実施
- ・成果 「**居住地校交流連絡会議**」を年間3回開催し、交流及び共同学習の意義について**教員の理解を深めることにより、取組が充実**
- ・課題 居住地校交流を実施する上での各学校における体制づくり

8 日本語指導初期支援員による初期の日本語指導の実施

9 特別の教育課程による日本語指導の実施

当初の予定どおり実施

令和5年度の取組

レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

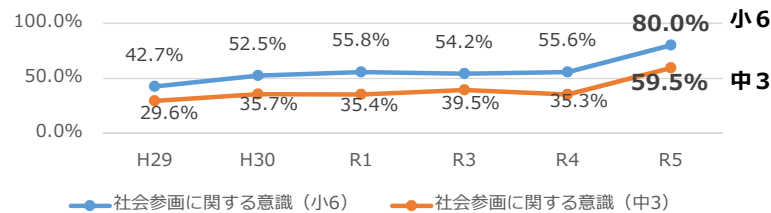
2. 取組の結果

総務企画局シティプロモーション推進室が12月に行った**令和5年度川崎市都市イメージ調査の調査結果（川崎市の詳細イメージ（川崎市民・年代別））**によると、市民全体ではランク外の「**多様性がある**」のイメージが、**若年層（15～19歳）では4番目**となっている。

このことは、若年層に対する**多様性を互いに尊重する教育などの理解促進に向けた取組の効果が発現**してきたものと考えられる。

川崎市民（全体）			川崎市民（15～19歳）		
1	便利	50.0%	1	便利	48.5%
2	産業が盛ん	37.8%	2	活気がある	43.3%
3	活気がある	32.4%	3	治安が悪い	36.8%
4	ごちゃごちゃしている	31.3%	4	多様性がある	30.8%
5	治安が悪い	29.1%	5	産業が盛ん	30.5%

また、文部科学省が毎年実施する「全国学力・学習状況調査」における**社会参画に関する意識を問う設問（「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した本市の児童生徒の割合）**では、**令和5年度は、小学生・中学生ともに過去最高の数値**を記録した。



上記結果から、子どもたちの「**多様性**」に対する意識や、**社会参画への意識が着実に高まっている**といえる。

なお、市民文化局パラムーブメント推進担当が実施した中学校2年生を対象としたアンケートにおいて、「**相手の立場になって、物事を考え行動することができる中学生の割合**」は、46.2%と**前年度と同程度**

困っている人を見かけた場合、自分から積極的に声をかける・手助けをするなど、行動することはできますか。

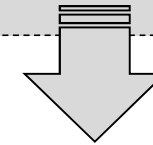
できる	46.2%
困っている人から声をかけられたらできる	43.0%
できない	10.8%

状況に応じて対応できる生徒を含めると**約9割が「できる」と回答**

3. 令和6年度以降の取組の方向性

川崎パラムーブメント推進ビジョンでは、**レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまちのレガシーが形成された状態**を、次のとおりとしている。

- 義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、人は平等であり、かつ、あらゆる機会の提供は公平であるべきことを理解しており、**誰もが各々の個性を互いに尊重**し合っている。
- 義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、**共生社会の担い手としてお互いに助け合い支え合うことの大切さを理解**し、実践的な態度が身についている。
- 大人たちが、自他の個性を尊重し助け合うことを実践し、子どもたちの模範となっている。



これまでの取組により、**子どもたちを主語としたレガシーが形成された状態に近づいている**。また、大人については、今後、教育を受けた子どもたちが大人へと成長していく中で、**着実にレガシーが形成された状態に近づく**ことが見込まれるものである。

こうしたことから、**教育部会は、令和6年度以降も、これまでと同様の取組を継続し、取組をより深めていく**ことで、レガシー形成に向け取り組んでいく。

4. 市民等の意見聴取

令和5年度と同様に、アドバイザーによる教職員を対象とした研修の実施などを想定しながら、詳細については、令和6年度の教育部会で決定する。